

幕張サン・ハイツ自主防災会広報

No.3

幕張サン・ハイツ自主防災会 2016.7

備えよう！火災対策

殆どの火災は、私達が注意をすることで防げます。自分や家族の命を落したり、大切な財産を失うことがないように、火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。

私たちの身のまわりには、出火の原因となる危ない物がたくさんあります。何が危険なのかを、まずはきちんと理解しておきましょう。

出火の原因となる危ない物

●たばこ

たばこの転倒・落下による火災、消したはずのたばこの再燃(寝たばこ)などにも要注意。

●コンロ

「ついうっかり」の消し忘れが危険です。揚げ物をしている途中にその場を離れた結果、火災が発生するケースが後を絶ちません。

●電気コード

コードを踏んだり、たばねたり、たこ足配線にするなどにより、コードが発熱して火災になります。コードのつなぎっ放しやペットのコードかじりも危険です。

初期消火は出火直後に！

出火の現場に居合わせたときの行動

●行動1 〈通報〉



大声で「火事だ!」と叫ぼう。大きな声で叫び、隣近所に知らせる。
声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたく。
どんなに小さな火事でも119番通報を。

●行動2 〈初期消火〉

出火直後が勝負。火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能。
備付消火器や風呂の残り湯、座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用しよう。

●行動3 〈避難〉

危険を感じたらすぐ避難。避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断。すみやかに避難行動を！。

火元別の消火方法を覚えておこう

●ストーブ



消火器は直接火元に向けて噴射。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

●電気器具



コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火する。泡消火器などは感電のおそれがあるので使用しないように。

●カーテン・ふすま・障子



カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要。火がついたら、引きちぎってから消火しよう。ふすまや障子などはけり倒し、足で踏んで消す。その後、水をしっかりかけて消火する。

●コンロ



油なべの場合、**水をかけるのは厳禁**。粉末消火器は鍋の全面を覆うように、強化液消火器は鍋のふちに向け噴射。消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断する。

■逃げるタイミングは天井の延焼

避難する目安は、天井まで火が燃え移った時。火が天井に燃え移るまでの間は初期消火に努めますが、もし**炎が天井に燃え移ったら、決して自分で消火をしようとせず、迷わず避難**をしてください。

住宅用火災警報器の設置

近年、全国的に住宅火災による死者が急増しています。特に犠牲者の方の大半が65歳をこえる高齢者となっております。就寝中に火災に遭遇することで発見が遅れ、逃げ遅れることが原因で犠牲者が発生するケースが増加の一途をたどっています。

住宅用火災警報器を未設置の方は早急に設置をしましょう。

※先月の「戸別現況調査」の結果、消火器・住宅用火災警報器の設置をされていない世帯がまだまだ多いようです。千葉市の火災予防条例では、「キッチン」及び「寝室」は「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。

火災事故が起きてからでは取り返しがつきません。早々のご準備をしましょう。